

1. 今年度大型調達について
 - DAQシステムの調達(IO chassis, ADC/DAC, AA/AI等)
 - 予算不足と検査体制の両立
 - AA/AIの全チャンネル検査、複数台IO chassisをつなげてのループ検査まで実施
 - インストール時にやらないと意味が無い→予算内ではADC/DACの全チャンネル検査はしない
 - 500TBストレージ分の予算がまるまる不足
 - 小さくする?100TB程度?
 - 今年度と来年度で残りの計算機、ネットワーク、回路(Whitening)等をそろえる

2. チェンネルリストとそれに関連する検討(資料参照)
 - 防振装置の約半分、干渉計の透過光ポートまで定義した
 - 現在干渉計と、低温関連の情報を入手
 - FI, OMC, REFL port, AS port, POX port等の防振は?

 - RT PCの台数の確認 -> 25台
 - 防振と光学を分けるか(台数増加)、一緒でもいいか
 - 一緒でいい
 - RT PCの名前を防振装置ベースにするか、光学テーブルベースにするか?
 - 場所をメインにして考える
 - 光学定盤の位置は?
 - 最終的には真空槽の中、最初は真空槽の近く
 - TRX, TRY, POX(PRM近く), POY(SRM近く), POP(PR2から), GRX(PR2から), GRY(SR2から)
 - PEMは腕内は3台でいいか

- ADC/DAC/BOの数の確認
 - 66/34 -> 80/40 or 58/34 -> 65/40
 - もう少し精度よく調べる必要がある
- BOが足りなくなる問題
 - whitening 4ch/BO 32ch
 - SUSのwhiteningはVGAなしでもいいか?
 - PCIe slots: 10 for ADC/DAC/BO/BIO, 8 for BO
 - BO専用にタイミングの必要が無いIO chassisを入れるか?→2台繋いで大丈夫かのテストが必要
- 計算機ラックの設置場所と配線について
 - 計算機の隔離場所はどこか -> 施設に要請
 - LSCとASCの配線をどうやって届かせるか
 - 各ポートからデジタルの信号を送るが、D-SUBケーブル部分が長くなる
 - MCEにどうやって届かせるか、IO chassisをfiberで繋ぐ(最長100m)
- whitening filter現状確認
 - whitening filterはまだLIGOでも試行中
 - ~160ch, 40 boards, 25 chassis
- 18bit DACを使うかどうか(神田)
 - aLIGOでもまだ実装されているとはいえない
 - AIはそのまま使えるか?
 - チャンネル数が16bit DACの半分で8chS
 - aLIGOではInterfaceのみ変更、filter自身は16bitのまま使っているようである
 - PCIe-18A08-8-40.32M
- 低温グループのチャンネル確認の現状(山元)

3. Slow DAQ?

- aLIGOはEtherCATで進めるようである

4. 定例報告

- 回路(上泉)
- 天文台STDA(端山)
- 防振系STDA(関口)

5. その他

- 22年度分の会計監査の準備が進行中
- Documentの整備について、配送状況をJGWDocに投稿することにする